

令和5年度(2023年) 玉県西支部春季大会



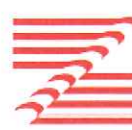
日本生命



エイジェック



Menicon



スターゼン

レギュラー 2023年5月7日・14日・21日・予備28日

ジュニア 2023年5月14日・21日・27日・予備28日

小学部 2023年5月7日・14日・予備21日

令和5年(2023年)、埼玉県西支部春季大会

大会要項

主催	公益財団法人 日本少年野球連盟 東日本ブロック 埼玉県西支部
後援	日本少年野球連盟、読売新聞東京本社
主管	公益財団法人 日本少年野球連盟 東日本ブロック
運営	東日本ブロック 埼玉県西支部 全チーム
協賛	ナガセケンコー株式会社、株式会社関東カーボンエンジニアリング
大会期日	中学部レギュラー 2023年5月7日(日)、14日(日)、21日(日)、予備日28日(日) 中学部ジュニア 2023年5月14日(日)、5月21日(日)、27日(土)、予備日28日(日) 小学部 2023年5月7日(日)、14日(日)、予備日21日(日)
開会式	2023年5月7日 安比奈親水公園B面にて8:00～実施
閉会式	小学生の部 2023年5月14日(日) 決勝戦終了後 中学部レギュラー 2023年5月21日(日) 決勝戦終了後 中学部ジュニア 2023年5月27日(日) 決勝戦終了後
開催球場	組み合わせ表通り(安比奈親水公園、KIスタジアム、児玉総合運動公園、他)
出場チーム	組み合わせ表通り 小学生の部 中学生(レギュラー)の部 中学生(ジュニア)の部
試合方式	小学生の部、中学生レギュラーの部、中学生ジュニアの部ともにトーナメント方式とする。
試合参加資格	抽選日までに登録を完了したチーム・選手で、所属選手を11名以上とする (小学生の部は4～6年生、中学生レギュラーの部は、1～3年生、中学生ジュニアの部は、1年生、2年生)
試合規則	埼玉県西支部 大会規定による
登録役員及び選手名簿	代表、監督、コーチ、マネージャー各1名。選手は小学生の部9名以上20名以内、中学生の部は11名以上、25名以内とする。



令和5年度 埼玉県支部 春季東西支部大会(小学生の部) トーナメント

■ 春季東西支部大会2023

5月7・14日 予21日

会場: 毛呂山B・深谷B

開会式... 安比奈 選手宣誓... 松本敢汰(深谷)

登録用紙... A4・5枚 参加費... 12,000円

☆試合時間: 100分(決勝戦は120分)

☆球数: 70球/日

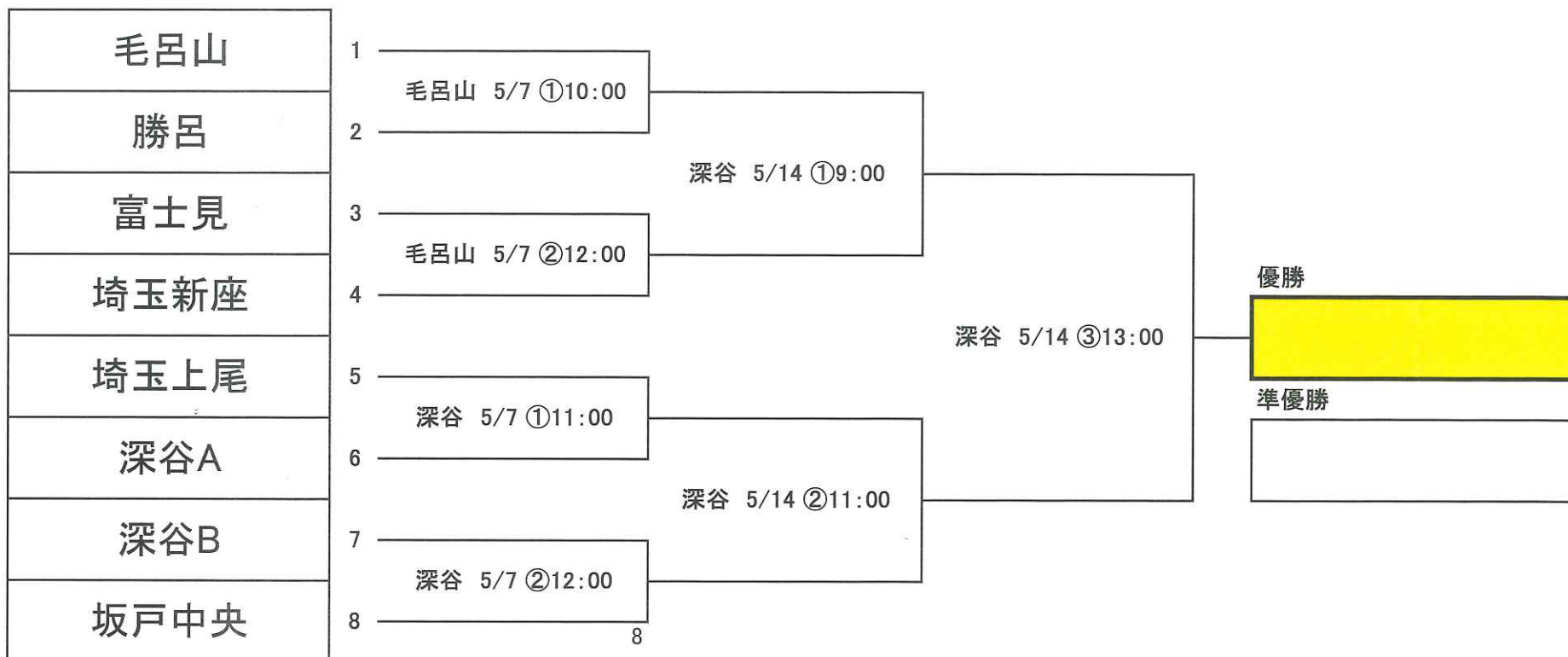
◆秋季大会 優勝... 埼玉新座 準優勝... 勝呂

* 審判: 支部審判2名+当該チーム審判(無償)2名

* ①5/7(毛呂山B)2試合: 6,000円

* ②5/7(深谷B)2試合: 6,000円

* ③5/14(深谷B)3試合: 9,000円





日本生命

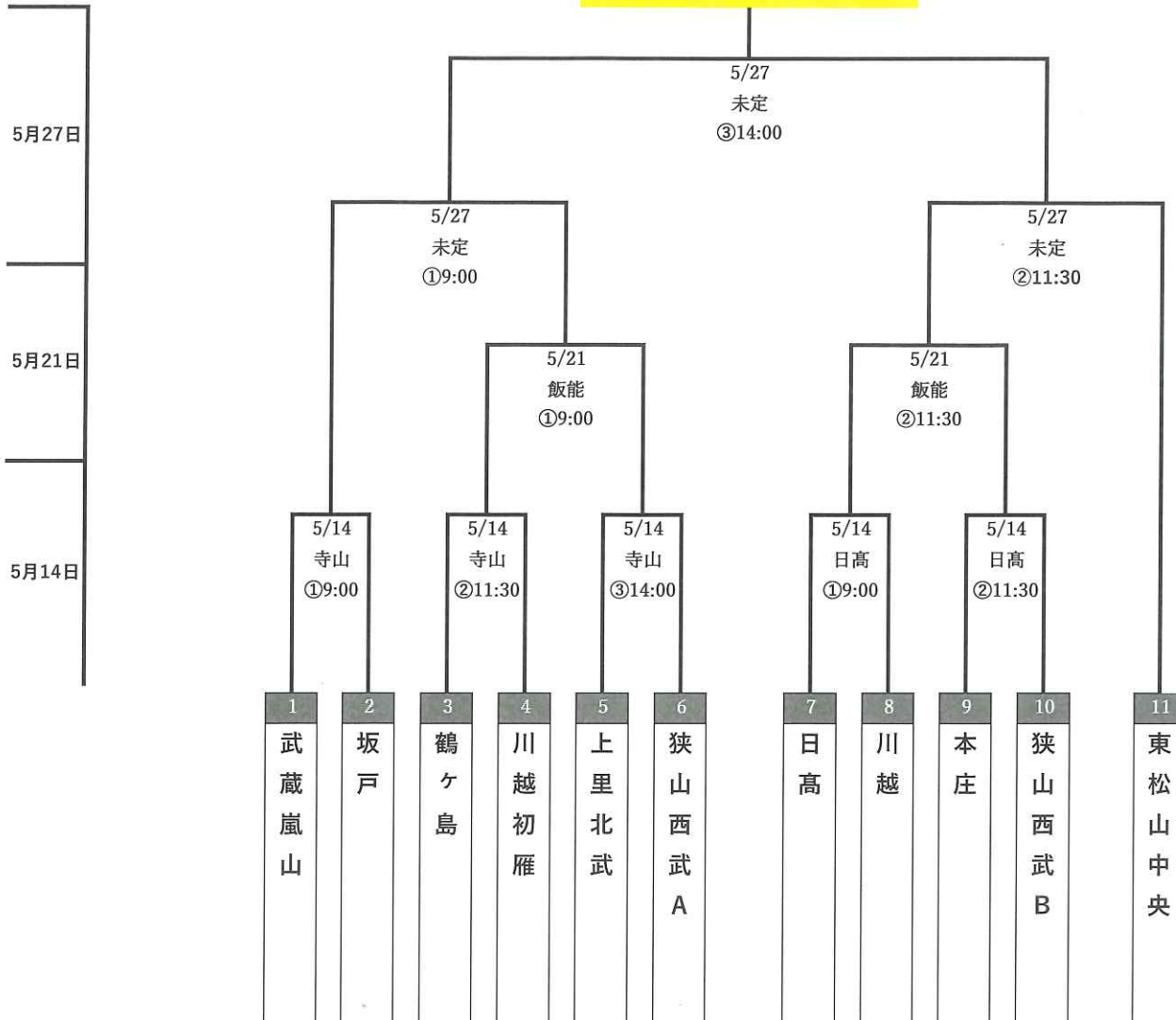


Japan Boys League

令和5年度埼玉県西支部 春季大会トーナメント (ジュニア)

日時 : 令和5年5月14日、21日、27日、28日 (予備日)
 開会式 : 5月7日、安比奈グランドB面 8:00~開始 (中学生の部、ジュニア及び小学部全チーム参加)
 閉会式 : 決勝戦終了後に実施 (都合により参列できないチームは連絡要)
 審判 : 各チーム塁審1名準備 (2回戦以降別途、連絡)
 試合球 : 西支部より支給
 参加費 : 15,000円+他、グランド使用料として3,000円

優勝	
準優勝	



※【抽選日】2023.4.22 (土)、埼玉西支部代表者会議にて各チーム代表抽選

※登録用紙はA4を5部、グランド費用と一緒に大会当日に本部へ提出の事

※コロナ感染対策当日チェックリストを本部へ提出

※チーム審判

会場が3試合の場合、但し、大会最終日は別とする

第①試合目 → 第3試合チーム

第②試合目 → 第1試合チーム

第③試合目 → 第2試合チーム

会場が2試合の場合

第①試合目 → 第2試合チーム

第②試合目 → 第1試合チーム

※グランド使用料に付いては、球場運営チームにて運営費に充てる

大会会場		
略称	名称	住所
安比奈	安比奈親水公園B面	川越市大字安比奈新田378
KI	ケイアイスタジアム	本庄市北堀433
寺山	寺山緑地グランド	川越被大字上寺山587-1
飯能	埼玉県立飯能高校	飯能市本町17-13
児玉	児玉総合運動公園	本庄市児玉町小平1258
日高	日高ボーイズグランド	日高市南平沢

2023. スローガン

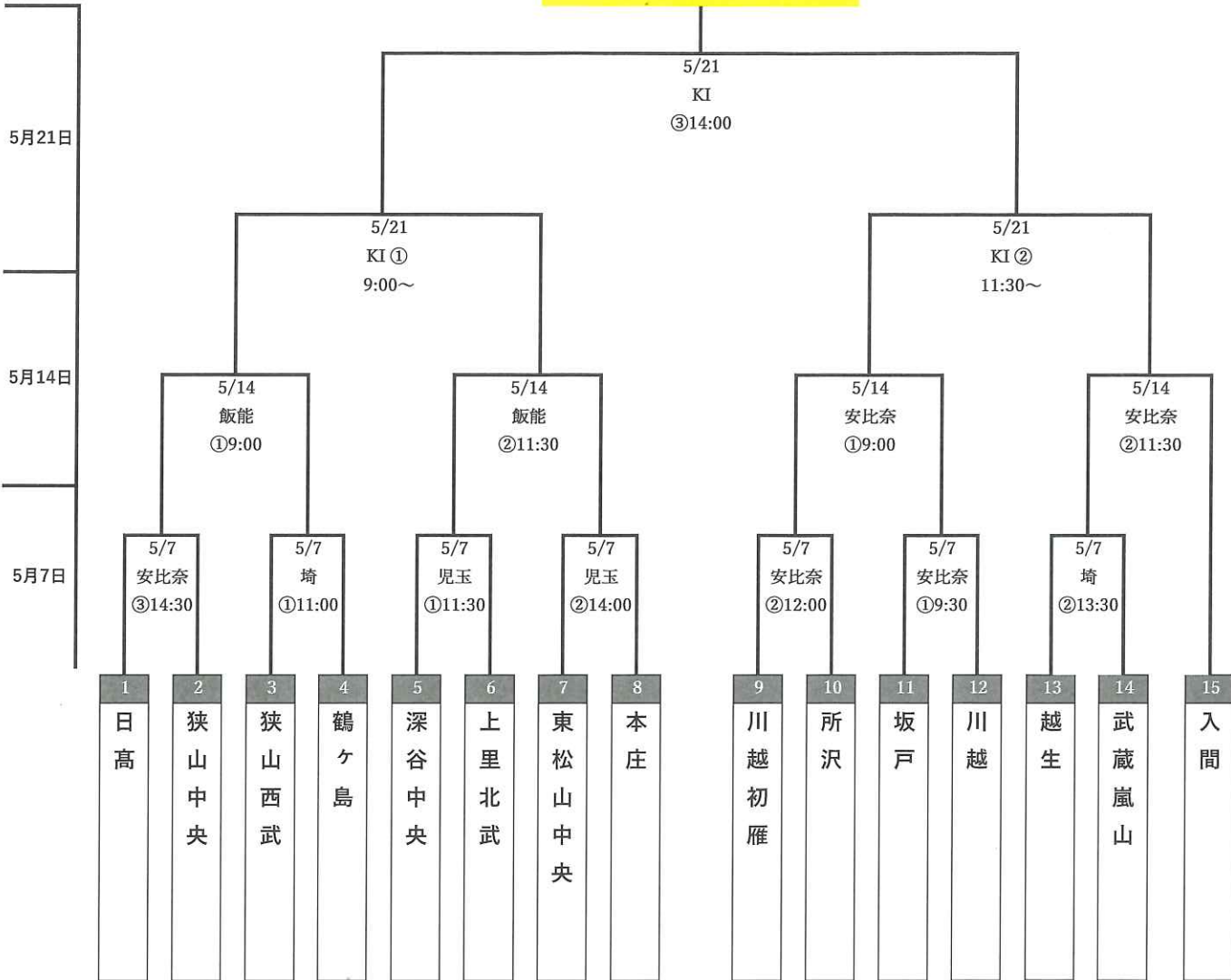
GO FOR IT
~全力で進もう~



Japan Boys League
令和5年度埼玉県西支部 春季大会トーナメント (レギュラー)

日時 : 令和5年5月7日、14日、21日、28日 (予備日)
 開会式 : 5月7日、安比奈グラウンドB面 8:00~開始 (中学生の部、ジュニア及び小学部全チーム参加)
 閉会式 : 決勝戦終了後に実施 (都合により参列できないチームは連絡要)
 審判 : 各チーム塁審1名準備 (2回戦以降別途、連絡)
 試合球 : 西支部より支給
 参加費 : 15,000円+他、グラウンド使用料として3,000円
 選手宣誓 : 深谷中央ボーイズ:橋本主将

優勝	
準優勝	
3位	
4位	



※【抽選日】2023.4.22 (土)、埼玉西支部代表者会議にて各チーム代表抽選

※登録用紙はA4を5部、グラウンド費用と一緒に大会当日に本部へ提出の事

※コロナ感染対策当日チェックリストを本部へ提出

※チーム審判

会場が3試合の場合、但し、大会最終日は別とする

第①試合目 → 第3試合チーム

第②試合目 → 第1試合チーム

第③試合目 → 第2試合チーム

会場が2試合の場合

第①試合目 → 第2試合チーム

第②試合目 → 第1試合チーム

※グラウンド使用料に付いては、球場運営チームにて運営費に充てる

大会会場		
略称	名称	住所
安比奈	安比奈親水公園B面	川越市大字安比奈新田378
KI	ケイアイスタジアム	本庄市北堀433
寺山	寺山緑地グラウンド	川越被大字上寺山587-1
飯能	埼玉県立飯能高校	飯能市本町17-13
児玉	児玉総合運動公園	本庄市児玉町小平1258
日高	日高ボーイズグラウンド	日高市南平沢

2023年スローガン

GO FOR IT
~全力で進もう~

日本少年野球連盟
埼玉県西支部主催大会規定

2023年3月1日改正

目次	頁
日本少年野球連盟 埼玉県西支部主催大会規定	1～2
タイブレーク実施細則	2
注意事項・確認事項	3
中学生投手の投球制限ガイドライン	4
小学生投手の投球制限ガイドライン	5
投球制限ガイドラインの補足説明	6
投手投球制限の運用催促	6
「中学生投手の投球制限統一ガイドライン」の適用例	7
「小学生投手の投球制限統一ガイドライン」の適用例	7

日本少年野球連盟 埼玉県西支部主催大会規定

1. チームの登録選手は、小学生の部は9名以上20名以内、中学生の部は11名以上25名以内(ベンチ入りは25名以内)とする。なお、小学生の部の特例として、野球に早くから親しんでもらう目的で、3年生以上を加えて25名までベンチ入りを認める。但し、試合に出場できるのは4年生以上20名までとする。
また、小学生の部では、4年生以上の選手を9名以上登録しなければ出場できない。試合中にケガなどで9名を割った場合、試合続行はできない。
2. 出場選手は、その大会の登録締め切り日現在、連盟への登録済みの者に限る。
なお、全国大会などの本選出場のために予選会を行った場合は、予選会の出場選手名簿を基本とする。但し、本選の2週間前まで変更を認める。
3. 審査証は、当年度発行のものとする。
4. オーダー表記入選手25名以内およびチーム責任者、監督、コーチ、マネージャーのみベンチに入ることができる。但し、各種登録書(チーム責任者、監督、コーチ)および審査証(選手)を携帯していない場合は、いかなる場合でもベンチには入れないが、チーム責任者、監督、コーチは、試合開始までに間にあった場合は、審査の上、ベンチ入りできる。また、選手は、試合終了までに間に合った場合は、審査の上、その時点でベンチ入りできる。なお、チーム責任者は、必ずベンチに入らなければならない。チーム責任者が不在の場合は試合ができない。
5. 組合せの若番号が1塁側のベンチ、後番号が3塁側のベンチに入る。但し、チーム責任者、監督、コーチは登録証を携帯すること。
6. 監督(背番号60)、コーチ(背番号50)は、選手と同じユニホームを着用すること。
7. 試合開始時刻60分前までに試合会場に到着し、直ちにオーダー表を5部、前日に試合を行った場合は投球回数記録表副表3部を大会本部に提出のうえ、所定の審査を受けなければならない。
8. オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。
9. 試合開始予定時刻までにチームがグラウンドに現れないときには、球場責任者と責任審判員が協議のうえ、責任審判員が没収試合を宣言する。
10. 試合方式など
(中学生の部)
 - ① 各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から2時間(決勝戦は2時間20分)を超えた場合、新しいイニングには入らない(但し、後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する)。また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則7.01(4)により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
 - ② 4回終了時(後攻チームの得点が先攻チームより多い場合は4回表終了時)10点差、5回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
 - ③ 7回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長8回(決勝戦は10回)あるいは試合開始から2時間(決勝戦2時間20分)を超えては(どちらか早い方)新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。(競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照)
(小学生の部)
 - ① 各試合は6回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から1時間40分(決勝戦は2時間)を超えた場合、新しいイニングには入らない(後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する)。また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則7.01(4)により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
 - ② 4回以降7点差の場合(後攻チームが勝っている場合は4回表終了時)、コールドゲームとする。
 - ③ 6回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長7回(決勝戦は9回)あるいは試合開始から1時間40分(決勝戦は2時間)を超えては(どちらか早い方)新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。(競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照)
11. (1)小学生の部の投手の投球数は投球制限(別紙、小学生投手の投球制限統一ガイドライン参照)。
(2)中学生の部の投手の投球数は投球制限(別紙、中学生投手の投球制限統一ガイドライン参照)。
12. (1) 監督またはコーチの指示、伝達は1試合で攻撃2回守備2回の計4回とする。延長又はタイブレークに入った場合は、それぞれ1回の指示、伝達を認める。(選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない)
(2) 守備側の投手に対する指示、伝達が3回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。
(3) 内野手が2人以上投手のところに行った時も1回に数える。
(4) 指示、伝達は審判がタイムを宣言してから「30秒以内」とする。
13. 1イニングで同一の投手に指示、伝達が2回目となれば、自動的に投手の交代となる。その投手は他の守備位置

につくことができるが、同一イニングでは投手として登板することはできない。但し、新しいイニングに入れば、再び投手として登板することができる。

14. 審判員の判定に関する抗議は認めない。但し、ルールの適用についての確認は認める。
15. 監督またはコーチが投手に指示などをするとき、マウンドで行うこと(ベンチからは駆け足で)
16. 2塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
17. ボール回しをする時は一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また、打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。
18. 投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。
19. 小学生の部は、攻撃側チームの監督、コーチに限りコーチズボックスでベースコーチを務めてもよい。この場合、必ず両耳付のヘルメットを着用すること。
20. 各チームは同色のヘルメットを7個以上、捕手の規定防具〔マスク、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガース、スロートガード、ファールカップ(一体型捕手用マスクの場合はヘルメット、ストローガードを除く)〕2組を備えること。
21. ユニホーム、バット、ボール、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限る。
22. 捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。
23. グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合は、それに従うこと。
24. ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。
25. 光化学スモッグ発生の場合、試合および選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従うこと。
26. 試合前のシートノックは原則として5分間行うが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案して、シートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。

参考

野球規則7.01(4)

7.02(a)によりサスペンデッドゲームにならない限り、コールドゲームは球審が打ち切りを命じた時に終了し、その勝敗はその際の両チームの総得点により決する

【注】

我が国では、正式試合となった後のある回の途中で球審がコールドゲームを宣したとき、次に該当する場合は、サスペンデッドゲームとしないで、両チームが完了した最終均等回の総得点でその試合の勝敗を決することとする。

- (1) ビジティングチームがその回の表で得点してホームチームの得点と等しくなったが、表の攻撃が終わらないうち、また裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってホームチームが得点しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。
- (2) ビジティングチームがその回の表でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってホームチームが同点またはリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

《 タイブレイク実施細則 》

(1) 特別規則

- イ) 中学生の部は、延長8回あるいは試合開始から2時間を超えて(いずれか早い方)、決勝戦は10回あるいは2時間20分を超えて(いずれか早い方)、小学生の部は、延長7回あるいは試合開始から1時間40分を超えて(いずれか早い方)、決勝戦は9回あるいは2時間を超えて(いずれか早い方)両チームの得点が等しい時、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。
- ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
- ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。
- ニ) この場合の代打および代走は認められる。

(2) チームおよび個人記録

チームおよび個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意すること。

イ) 投手記録

規定により出塁した3走者は、投手の自責点とはしない。

完全試合は認めない。

無安打、無得点試合は認める。

ロ) 打撃成績

規定により出塁した3走者の出塁の記録はないものとする。但し、盗塁、盗塁死、得点、残塁などは記録する。

規定により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などは全て記録する。

注意事項・確認事項

- 1) 球場に到着したチームは、速やかに大会本部にその旨を報告し、その際オーダー表「5部」を提出すること。オーダー表は「25名記名用」を使用すること。登録原簿との照合を受けた後、球審の立会のもとに攻守を決定する。二試合目以降のチームも登録原簿との照合を受けた後、球審の立会のもとに攻守を決定する。
- 2) グラウンドインから試合終了まで、チーム責任者、監督、コーチ、マネージャー、登録選手以外はベンチに入ることができない。
- 3) グラウンドインしたチームは球場責任者の指示のもと、速やかに試合前の練習を行うこと。グラウンドルールがある場合はそれに従うこと。
- 4) 試合開始前のシートノックは5分間とする。なお、守備位置につかずシートノックの補助をする登録選手はヘルメットを着用すること。
- 5) ボール回しは、一回り以内とし最終野手はその位置から投手に返球する。(試合時間が遅れている時にはボール回しをやめさせる)
- 6) 監督がタイムを取って投手に指示を与える場合、マウンド付近で行うこと。(駆け足で)
- 7) 試合進行を意図的に遅らせる行為と疑われる選手交代には注意を与える。
- 8) 小学部においては、監督、コーチがコーチボックスに入る場合は、両耳付ヘルメットを着用すること。
- 9) 試合は大会規定で定められた時間内で行うことを目標にし、スピーディーな試合進行に努めること。
- 10) 臨時代走
 - ① 試合中、攻撃側選手に不慮の事故が起き、治療などの処置に時間がかかるような場合は、相手チームに事情を説明して臨時代走を申し出ることができる。但し、頭部への死球に対しては、必ず臨時代走を出すこと。
 - ② 臨時代走者は、投手を除いた選手のうち、打撃を完了した直後の選手とする。
 - ③ 臨時代走者は、アウトになるか、得点するか、インニングが終了するまで継続する。
 - ④ 臨時代走者に代えて別の代走を送ることはできる。この場合、負傷した選手に代走が起用されたことになり、以後負傷選手は出場できない。
 - ⑤ 臨時代走者の記録上の取り扱いは、盗塁、得点、残塁などのすべて元の走者の記録として扱われる。
- 11) 次打者は、必ずネクスト・バッタースサークルに入り、待機すること。
- 12) 手袋、リストバンド、エルボーガード、フットガードの使用を認める。打者が走者になった場合、これらのタイムは認めない。但し、打者走者が二塁ベースに到着した際に限り、これらの脱着のためのタイムは認める。(速やかにベースコーチが取りに行くこと)
- 13) グラウンド内のブルペンで投球練習を行うときは、安全対策上、ヘルメットを着けた打撃監視員を必ず1名おくこと。
- 14) 交代選手の準備運動は、バッテリーまたは野手1組とする。
- 15) ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。メガホンはベンチ内持込みは2個までとする。
- 16) 観客席応援で石等々をペットボトルに入れての応援は厳禁とする。(鳴物禁止)
- 17) グラウンド整備は、中学生の部では両チーム5名に手伝わせる。(4回終了後にグラウンド整備を行う。但し、日没・天候等々で懸念される場合は、球場責任者・責任審判員の判断により行わなくても良い。)※グラウンド整備中は時計を止めないこととする。
- 18) 次試合の開始時間は(目安30分前後が目標)、球場責任者と責任審判員で決定する。(整備は機敏に)
- 19) 攻撃、守備のタイムの制限があるので、審判員がタイムをとったベンチと記録員に報告させ記録席において回数をチェックさせる。
- 20) 試合終了後、記録員は試合記録表を両チーム責任者または監督から確認のサインを必ずもらうこと。
- 21) 問題が発生すれば大小に拘らず、野崎支部長(090-3006-0467)に急ぎ一報入れること。
- 22) 天候不良により会場変更などが生じる場合は、企画運営部長【中学部は松清代表(090-6028-0881)、小学部は福島副支部長(090-7008-4551)】に連絡すること。
- 23) 喫煙マナーについては、球場の規則に従うこと。(歩行喫煙、ポイ捨て厳禁)
- 24) 各球場においては、置き引き、貴重品盗難、車上狙い等に気を付けるとともに、管理を厳重にすること。
- 25) 選手のサングラスの使用に付いては、資格審査時に資格審査員及び責任審判員の承認を得た物のみ、使用する事を認める。また、選手及び指導者の中で医療的なサングラスが必要な必要な場合は、資格審査時に審査員及び責任審判員申し出て許可を得て使用することとする。

中学生投手の投球制限ガイドライン

レギュラーの部・ジュニアの部大会

※本年9月から翌年3月までの大会は2年生以下の大会とする。

- レギュラーおよびジュニアの試合での登板は以下とおり制限する。
 - ①1日最大80球とし、連続する2日間で120球とする。
連続する2日間で80球を超えた場合は、3日目は投球を禁止する。
また、3連投(連続する3日間)する場合は1日の投球数を40球以内とし、4連投(連続する4日間)は禁止する。
 - ②大会中は1日80球以内とし、翌日投球を休めば3日目は80球の投球を可とする。
 - ③①～②を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は、当該打者の打席終了までは投球を認める。
制限数を超過した球数は投球にカウントしない。
 - ④連続する2日間で80球を越えた投手、並びに3連投した投手は登板最終日並びに翌日は捕手としても出場できない。
(投手として登板できない場合は、捕手としても出場できない)
 - ⑤ボークは投球数としない。
 - ⑥雨などノーゲームになった試合は投球にカウントする。
 - ⑦2年生以下が投手の場合も上記に準ずるが指導者は十分考慮する事。

1年生大会

- 1年生大会の試合での登板は以下とおり制限する。
 - ①1日最大70球とし、連続する2日間で105球以内とする。連続する2日間で70球を超えた場合は、3日目は投球を禁止する。また、3連投(連続する3日間)する場合は1日の投球数を35球以内とし、4連投(連続する4日間)は禁止する。
 - ②大会中は1日70球投球後、翌日投球を休めば3日目70球の投球を可とする。
 - ③①～②を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。
制限数を超過した球数は投球にカウントしない。
 - ④連続する2日間で70球を越えた投手、並びに3連投した投手は翌日は捕手としても出場できない。
(投手として登板できない場合は、捕手としても出場できない)
 - ⑤ボークは投球数としない。
 - ⑥雨などノーゲームになった試合は投球にカウントする。

※ 共通事項

- ダブルヘッダーの場合で2試合に登板した場合は、連続2日間投球したこととする。
また、1試合のみ投球した場合は1日の投球とする。
- 練習中の投球数は、1日70球以内、週350以内とする。
また、週1日以上、全力による投球練習をしない日を設けること。

小学生投手の投球制限ガイドライン

レギュラーの部・ジュニアの部大会

- レギュラーおよびジュニアの試合での登板は以下とおり制限する。
 - ①1日最大70球とし、連続する2日間で105球以内とする。3連投(連続する3日間)は禁止する。
 - ②大会中は1日70球以内とし、翌日投球を休めば3日目70球の投球を可とする。
 - ③①～②を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は、当該打者の打席終了までは投球を認める。
制限数を超過した球数は投球にカウントしない。
 - ④ボークは投球数としない。
 - ⑤雨などノーゲームになった試合は投球にカウントする。

※ 小学部共通事項

- ダブルヘッダーの場合で2試合に登板した時は、連続2日間投球したこととし、翌日は登板できない。
また、1試合のみ投球した場合は1日の投球とする。
- ダブルヘッダー登板は可、3連投は不可とする。
- 小学部においては投手から捕手の制限は設けないが、指導者は十分考慮すること。

補足: キッズの部(4年生以下)大会

- キッズの試合での登板は以下とおり制限する。
 - ①1日最大50球とし、2日間の連投は禁止する。
 - ②打者の途中で制限数が来た場合は、当該打者の打席終了までは投球を認める。
制限数を超過した球数は投球にカウントしない。
 - ③ボークは投球数としない。
 - ④雨などノーゲームになった試合は投球にカウントする。

投球制限ガイドラインの補足説明

- (1) 打者の途中で制限が来た場合について
打者の途中で制限が来た場合とは、投球日における可能投球数のことである。
中学レギュラーの部を例にすると、初日においては80球を超えた場合であり、また、初日68球投げた連投2日目であれば、2日目の可能投球数52球を超えた最後の打者に適用される。
投手に3連投を予定していた場合には、初日、2日目に40球を超えると3日目は投げるができない。初日、2日目において打者の途中でなくても40球投げた時点で交代しなければ、3連投はできない。41球投げれば3連投はできない。(打者の途中での投手の交代は制限していない)
- (2) ダブルヘッダーについて
ダブルヘッダーの試合は、その日の第1試合、第2試合どちらかで投げれば翌日(前日)の試合の連続扱いとする。(片方の試合に登板しなくとも休みとはしない)
両方の試合に投げた場合は、1日の最大投球数80球(中学レギュラー)で連続の試合で投げたこととなり、翌日投げる場合、また前日投げていた場合は、3連投の扱いとなり、1試合40球を超えていると投げられない。

投手投球制限の運用催促

1.投球数の定義

試合中に投手が捕手に向かって投げた球とする。

以下の場合、球数としてカウントしない。

- ① 牽制球
- ② ボーク

※ただし走者なしの場合のボークで投球動作中にボールが手から飛び出し、ファウルラインを超えて「ボール」と宣告された投球数はカウントする。

- ③ 当該打者へ申告敬遠を行ってから投球数。

2.投球数の管理

- ① 球場責任者は、スコアラー1名、投球数管理責任者と投球数管理者の2名を配置する。
- ② 投球数管理責任者は別紙「投球数集計表」により記録する。
- ③ もう一人管理者は、カウンター、得点版等の器具を用いて投球数を計測する。
- ④ イニング終了時に投球数管理責任者、管理者とスコアラーにより投球数を一致させる。
- ⑤ 投球数が一致しない場合は、3人のうち多い方を投球数と決定、3者が一致しない場合は投球数管理責任者の投球数を記録する。
- ⑥ 確定した投球数を次のイニング開始前にアナウンサーが球場にアナウンスする。
- ⑦ 投球数はイニング毎の投球数及びその投手の総数の投球数をアナウンスする。
(例「この回の得点は○点、投球数は○球です。なお、△□投手の総投球数は○球です。」)
- ⑧ 各チームはアナウンスされた投球数と違うと判断した場合は、監督がタイムをかけて球場責任者及び投球数管理責任者と協議して投球数を決定する。

3.運用・管理方法

- ① 当日の試合終了後、勝ち上がりチームは、「投手投球記録表」(副3枚)を作成し球場責任者に提出すること。なお、当面は「投手投球回数記録表」(副)を代用して差支えない。
- ② 球場責任者は提出された「投球数記録表」(副)を上記2の投球数管理者のもとに間違いのないかを確認し、「投手投球数記録表」(正)を作成、署名交付する。
- ③ 球場責任者又は勝ち上がりチームが責任を持って翌日以降の大会の球場責任者に対して、「投手投球記録表」(正)及び(副3枚)を引き継ぎ、球場責任者は「投球数集計表(原本)」を保管する。
- ④ 翌日以降の球場責任者も①～③の手順に沿って投球数管理を行い最終的に大会本部に引き継ぐ。

「中学生投手の投球制限統一ガイドライン」の適用例

	第一日目	第二日目	第三日目	第四日目	第五日目	第六日目	備 考
投手A	80	0	80	0	80	0	80球投げた翌日には登板していないため、翌々日には80球投球できる。 (打者終了時に80球を超えても、1試合分の最大カウント数は80球)
投手B	80	40	休	80	0	80	一日目80球、二日目40球で連続する2日間で120球となったため、三日目は投手・捕手として出場できない。(※また、2日間で80球を超えているので三日目は捕手として出場できない規定もある。投手D参照)
投手C	40	40	35	休	80	40	3日間連続40球以内であれば登板可能。ただし球数に関わらず3日間連続登板した場合は、四日目は投手・捕手として出場できない。 四日目が休みだったので、五日目80球、六日目40球の投球は可能。
投手D	40	45	休	30	60	休	一、二日目で80球を超えたため、三日目は投手・捕手として出場できない。 四、五日目で連続2日間で80球を超えているため、六日目の3日間連続登板および捕手として出場できない。
投手E	40	40 40	休	80	0 40	休	一、二日目で40球以内の3連投をしているため、三日目は投手・捕手として出場できない。四日目は80球のため五日目は投球した時点から1試合目に登板していても連続する2日間で80球を超えるため、六日目は投手・捕手として出場できない。
投手F	30 50	休 ※ 捕 手 可	40 40	40	休	80	ダブルヘッダーで80球以内であっても、どちらかの試合で40球を超えた場合は3連投できないが、※連続した2日間で80球以内なので、翌日は捕手として出場できる。 三日目からの3連投は40球以内なので可能であるが、3連投した投手は投手・捕手として出場できない。
投手G	40 40	40 休	休	0 40	40 40	休	3連投は40球以内なので可能であるが、二日目第二試合、六日目は投手・捕手として出場できない。また、3連投する場合、1試合目・2試合目は打者の途中であっても40球以内に交代しなければならない。

「小学生投手の投球制限統一ガイドライン」の適用例

	第一日目	第二日目	第三日目	第四日目	第五日目	第六日目	備 考
投手A	70	0	70	0	70	0	70球投げた翌日には登板していないため、翌々日には70球投球できる。 (打者終了時に70球を超えても、1試合分の最大カウント数は70球)
投手B	70	35	休	70	0	70	連続する2日間で105球の制限があるため、一日目70球投球した場合、二日目は35球が最大となる。
投手C	30	30	休	40	65	休	1日の最大投球数70、かつ連続する2日間105球未滿だが、3連投禁止のため、三日目は登板できない。 ※捕手としての出場は可能。
投手D	50 20	休	70	0	70	0	ダブルヘッダーの当番は可能だが、1日70球制限のため、一日目の1試合目に50球投球した場合、2試合目は20球が最大となる。 また、ダブルヘッダーで2試合登板した場合、連続する2日間投球を行ったことになるため、二日目は登板できない。※捕手としての出場は可能。
投手E	35	0 70	休	70	35 休	休	一日目(四日目)に登板しているため、二日目(五日目)のダブルヘッダーは、1試合目、2試合目のどちらかしか登板できない。加えて、3連投禁止のため、三日目(六日目)は登板できない。※捕手としての出場は可能。 また、連続する二日で105球の制限があるため、二日目は70球、五日目は35球が最大となる。

【小学生・中学生 共通事項】

※打席の途中で制限数が来た場合は、当該打者の打席終了までは投球を認める。

制限数を超過した球数は投球数にカウントしない。

※数字は投球数。「休」は投手・捕手として出場できない日。(小学生は捕手の出場は可)「0」は登板しなかった試合。

※指導者は、公式戦だけでなく、練習試合も対象となっていることを認識する。